

## ①ディレクトフォース

私はこの企画にディレクトフォースの方々はどのような考え方や見方をして今の自分とは何が違うのかを知ることができたらいいなと思いながら臨みました。私は複数の方々のお話を聞きましたが、特に印象に残っている方の話をしたいと思います。

まず、日高将博さんです。日高さんの略歴を拝見したり、話を聞いてみたところ32歳という若さで今までに災害支援で海外に行ったり団体を設立するなど数多くのことを行っていらっしゃいます。私は大人になっても自分のことだけで精一杯になり、海外に災害支援に行ったり団体を設立したりすることなど考えてもいないと思います。そして、世界各地で活躍する日高さんをすごいと思うと同時に自分とは遠い存在のように感じました。そして私は日高さんにいくつかの質問をしました。まず今までで行ってきた災害支援で1番大変だったことは？という質問にはフィリピンのクリオン島に行き台風が直撃した事とおっしゃっていました。以前ニュースでもフィリピンに台風が直撃し、建物が全壊している画像を報道しているのを見てとても驚きました。さらに死傷者も出ている事も知り、そのような甚大な被害を支援するのはとても大変なことだなと感じました。次に災害支援をするための心構えとは何か？と聞いたところ現地のご飯を食べることと現地の言葉をしゃべることとおっしゃっていました。こうすることで、地元の人達との距離を縮められるそうです。もし、将来私が何かの機会ですら海外に行くことになった時は私もこのようにしてみたいなと思います。

次は安達公一さんです。安達さんはブラジルに駐在していて三国フーズの社長として活躍していらっしゃいます。私は環境や文化が違うブラジルで社長として働くことはとても大変なのではないかなと思っていました。そこで私は安達さんに異国で社長として働く上で大切なことは何か？と質問したところまず、相手を思いやる・敬意を表す・受け入れることと話し合うことが1番大切とおっしゃっていました。話し合いをする時もまず最初に相手の話を聞き、それから自分の話をして相手の意見と自分の意見をすり合わせる必要があります。柔軟性を持っていないと出来ないそうです。今回私はディレクトフォースの方々のお話を聞いてみて、現在世界規模で活躍している方々は若い時から高い意識を持っていた事が分かりました。私はこれから何事においても高い意識を持って挑みたいなと思います。

## ②企業大学訪問

私は企業大学訪問で、アステラス製薬を訪問しました。なぜ私がアステラス製薬を訪問したかということ、将来医療に関わる仕事に就きたいと考えているからです。広報部コミュニケーション係長の塚原宏樹さんは私たちにアステラス製薬や医薬品について詳しく説明してくださりました。まず、製薬産業についてです。医薬品は期待効果だけでなくマイナス効果をもたらすことがあるので「諸刃の剣」と言われていて、病気や体質に合わせて適切に使用することから「医薬品は情報を伴った化学物質である」とも言われています。私は医薬品は病気を治すだけと思っていましたが、間違った使い方をすれば身体に異常が現れる可能性があるのが怖いなと思いました。アステラス製薬さんは私たちは医師の指示に従って薬を服用することを気をつけて欲しいということでした。また、最近では高齢者の方が薬を服用しやすいように専用のゼリーなどが販売されており薬の効果だけではなく患者が薬を服用しやすい工夫もされていて、現代の医学はますます進歩しているなと改めて実感しました。そして、医薬品は大きく分けると薬局などで自分で買える一般用医薬品と病院で医師から渡される医療用医薬品があるそうです。このことを聞いて、確かに医療用医薬品は薬局では買えないと気づきました。医療用医薬品は一般用医薬品よりも効き目が強く、年齢や体質なども十分に考慮され一人一人に合った薬だから薬局では買えないのではないかなと思いました。また、アステラス製薬の一般用医薬品の売り上げは9.8%（6774億円）医療用医薬品の売り上げは89.8%（6兆1940億円）だとのことでした。私の姉や母

はよく医療用医薬品を服用することが多いですが、一般用医薬品と医療用医薬品でこんなに差が生じていることに驚きました。続いて世界における新薬開発ランキングについて教わりました。日本は3位で8個、2位はスイスで15個、1位はアメリカで47個で日本は世界の中でも医療の技術が高いことが分かったと同時に環境の良い日本で将来新薬開発に携わられたらいいなと思っています。ですが、研究開発を始めてから私たちがその薬を飲めるようになるまで9年から17年かかり、1つの薬あたりの研究開発費用は1000億円超なので新薬を開発することはとても難しいことなんだなと感じました。

そして、1つの薬ができるまでの過程を教えてくださいました。大まかな流れとしては、研究→開発→生産→販売ということだそうです。この流れの中で私が一番興味を持ったのは開発です。なぜなら他の3つは頭の中で簡単に想像することができたのですが、開発だけ想像することができなかつたからです。詳しく教えてもらったところ開発という工程は端的に言うと、研究して発明された薬を実際に試してみることで全部で3段階あるそうです。1段階は健康な人に、2段階は高齢者や病気を患っている人といった限定の人に、3段階は1000人～2000人試してもらい薬を開発すると教わりました。これらは全て薬の安全性のテストであり、安全かどうかを判断するのにこんなに多く実験することに驚きました。また、薬を服用する人は応募して集めるということなので今度機会があったら応募してみたいなと思っています。最後に、私たちがアステラス製薬さんに質問して強く印象に残っているものをあげていきます。まず仕事をしていて1番やりがいを感じる時は？という質問には塚原さんの場合、青森県でMRをやっていた時に上司の方からチーム医療の一員だと言われた時とおっしゃっていました。私は中学のときに門脇中学校から上杉山中学校へ転校しました。そして転校する前に門脇中の先生から、転校してもお前はこの学校の大事なメンバーだとおっしゃって頂きました。私もこのような塚原さんと似た経験をしたので共感しやすかったです。また、薬が役に立った時も嬉しいとおっしゃっていました。確かに自分が携わった薬が世の中で活躍したらとてもやりがいを感じるし、私が製薬会社に勤めたらそれを目標にして仕事を行うと思います。次にアステラス製薬さんは今どのような事業を行っているのですか？という質問をしたところ失明を治すことを目指しているとのことで、私は今まで失明したら一生目が見えなくなることだと思っていましたが、薬で治すことができるかもしれないということを知り、とても驚きました。

最後に私たちが将来製薬会社に入社したらどのような力を要求されますか？という質問では塚原さんは *serendipity* が必要とおっしゃっていました。*serendipity* とはふとした偶然をきっかけにひらめきを得て、幸運をつかみ取る能力のことだそうです。これがなければ自分には今なにをすべきかわからないため目の前にあるチャンスを潰してしまう可能性があるのです。私はこの力を養えるようにこれから頑張っていきたいと思っています。私は今回アステラス製薬を訪問して、今の私の夢である薬剤師に少し近づけたような気がします。この経験を糧にして、さらにレベルアップできるように今後も努力していきたいです。